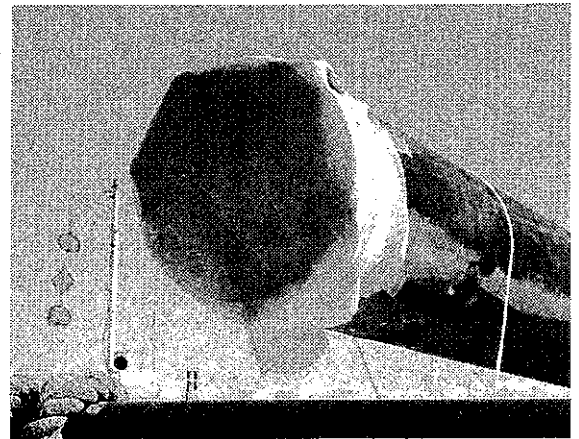


「紙管」利用の油吸着材発売

NIPPO 土壌汚染対策などに有効

NIPPOは、古紙を原料とする油吸着材「油吸太郎」(おびらぎゅうた)だ。



各種油漏対策に有効 (写真は油配管工事での使用例)

「油吸太郎」の販売を始めた。新日本石油の麻里布精油所(山口県和木町)で製造する炭素材「ニードルコークス」を配合し、強力な疎水性と高い油保持能力を実現。ガソリンスタンド(SS)や貯油施設の漏油対策や油で汚染された土壌の浄化などに役立つ。同社が販売総代理店となり、新日石グループ各社を通じて販売を展開し、10年度に年間1億円の売り上げを見込む。同社が発注する新日石の製油所整備やマンション開発などで、「施工を手がけるゼネコンにも利用を促していく」(エネルギー事業本部)考えだ。

油吸太郎は、廃材として処理される紙を巻くときに使う「紙管」が原料。これを粉碎してファイバ状にして撥水処理を施した上で、ニードルコークスを配合してつくる。同種の油吸着材との比較試験でも、水をほじき油だけを吸着する優れた親油疎水性と、力強い油保持能力を確認。コストパフォーマンスに優れていることも立証済みだ。天然素材の原料のため、使用後は燃えるごみとして処分できるなど、環境に優しい。

販売価格は、マットタイプ(50巻×50巻)が1箱100枚入りで税別3万1000円、ロールタイプ(60巻×53巻)が1箱で同3万3000円。NIPPOのほか、新日石の子会社の新日石トレディング(東京都港区、伯田頼彦社長)、日本シユンテック(横浜市神奈川区、萩原哲社長)、NIPPOの子会社のニッポメックス(さいたま市西区、藤居光夫社長)を通じて販売する。

用途は、▽海・河川での事故による流出油回収・除去▽工場の排水ヒックトの浮上油回収▽SS・貯油施設での漏油対策▽各種機械整備工場での漏れ油の回収・除去▽学校・病院・その他施設の調理場の油回収・除去など。流出油対策では、国土交通省の型式認定も取得している。

同社のマンション開発では、清水建設が施工する土壌浄化工事で既に油吸太郎が取り入れられている。また、全国160カ所に保有するアスファルト合材工場への採用も進めていきたいという。

日刊建設工業新聞
平成21年11月13日掲載

親油疎水性能を持つ油吸着材

土壌浄化に効果

NIPPO 低価格武器に拡販

NIPPOは、水をはじいて油だけを吸う天然素材の吸着材の販売を始めた。土壌浄

化の現場や油配管工事など、さまざまな分野で油の除去や油漏れ防止に役立つ。古紙を使った紙管や重油からできる炭素固形物・ニードルコークスを原料とし、使用後は可燃ごみとして処理できるため、環境にもやさしい。高い油吸着能力と低価格を武器に、まず新日本石油グループ関連での販売を強化し、一般市場に拡大する。



すぐに油を吸い取り、逆戻りもない。綿よりもコストパフォーマンスは高い。

油吸着材は、土壌や河川、海に流出した油を回収するほか、廃油処理、油飛散防止などに使われる。

NIPPOが販売総代理店となつて11月に発売した油吸着材「油吸太郎（あぶらきゅうたろう）」は、水をはじいて油だけを吸着し、吸った油を逆戻りさせない。

原料は、紙を巻く際の芯材となる紙管と、重油を原料とした炭素固形物であるニードルコークス。紙管は再利用が難しく、産業廃棄物として処理することが多かったが、製造元となる村上商事（山口県岩国市）の技術により、粉碎、ファイバー状にした上で撥水処理を施し、吸着、保持能力が高い油吸着材として再利用できるようになった。

新日石の麻里布製油所で製造されているニードルコークスは、主に電気炉用の電極として使われている。活性炭と

同様に油を吸着するほか、高い疎水性を持つ。

土壌汚染対策や流出油の回収、拡散防止のほか、工場の排水ピットなどでの浮上油回収、ガソリンスタンドの漏洩油対策、機械整備工場の漏洩油除去などに活用できる。

販売は、新日石トレーディング、日本ジュンテック、ニッポメックスなど、新日石、NIPPOの子会社が手がける。

NIPPOの開発事業部が手がける物件で、ゼネコンに土壌浄化への使用を促すほか、製油所、構内業者に販売し、実績を増やしてグループ外に拡大させる。

販売価格は、海上油の吸着について国土交通省の型式認定を受けたマットタイプ（50センチ角）が100枚1箱で3万1000円。ロールタイプ（60センチ×53センチ）が3万3000円。2010年度に1億円の販売を目指す。

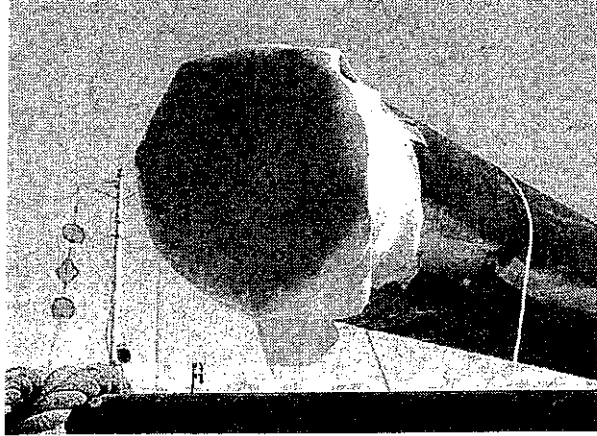
天然素材の「油吸太郎」を発売

ニードルコークスで強い油保持能力

多様な場面へ活用見込む

NIPPOら

NIPPOは、高い親油疎水性と油保持能力でコストパフォーマンスに優れた天然素材の油吸着材「油吸太郎」を発売している。新日本石油の炭素材「ニードルコークス」を使ったもので、工場やガソリンスタンドなどの油除去や回収、廃油処理、飛散油の拡散防止に活用できる。新日本石油のグループ会社である同社ほか、新日石トレーディング、日本ジュンテック、ニッポメックスのそれぞれの販売ルートで販売を展開。目標売上は10年度に1億円。



用途事例、油配管工事油漏れ防止

新日本石油は電極などに使用していた「ニードルコークス」について、活性炭と同程度の油吸着能力があることから、活用の研究を進めている。「ニードルコークス」は、低硫黄分の重質油を原材料とし、低圧高温で不純物を取り除き、コークスを生成したもので、新日本石油精製麻里布製油所で製造される。

今回、販売を開始する「油吸太郎」は、古紙をフアイバー上に粉砕し撥水

処理を施したものに、ニードルコークスを配合し油の吸着力と保持能力を高めたもの。ニードルコークスの研究の一環として開発した。古紙には、再利用が難しく「廃材」として処理していた、紙を巻く時に使う紙管を使用している。製造元は村上商事（山口県岩国市、村上雅典社長）。

新日本石油とNIPPOが共同で行った性能実験では、レーヨン十ホリエステル、綿、ポリプロピレンの各製品に比べ、新油疎水性・油保持能力が総合的に優れていることを確かめた。そのため同寸法では単価が安く、コストパフォーマンスにも優れる。吸着物によつては産業廃棄物処理

が必要となるが、天然素材を使用しているため、使用後は燃えるゴミとしての処分が可能。その上、素材自体が再生資源であるため、グリーンマークを取得しており、環境配慮商品ともなっている。

活用場所としては、Sの土壌浄化や、流出油改修・除去（形式認定取得）、アスファルトの仕上げなどのほか、工場の排水ピットなどの浮上油回

収、貯油施設などの漏油対策といった飛散油の拡散防止にも力を発揮するとして販売に注力していく。また拡散防止に加え、上を歩くことができ、ほど強度があるため、厨房施設の油污れ飛散防止のための下敷きなど、多様な活用を見込んでいく。

NIPPOは同商品の販売総合代理店として販売を推進するほか、関係会社を通じて販売を展開。価格は、マットタイプ1枚50×50×0.5mm、1箱100枚入りで3万1000円。ロールタイプ60mm×53mmで3万3000円。いずれも税抜き。

NIPPOほか新日本石油グループは「Your Choice of Energy」の理念の下、「地球環境との調和」を尊重し、商品開発・販売を推進していく。